

小林芙蓉書画展で「令和6年能登半島地震」募金活動 島田 雅文

3月13日(水)、小林芙蓉書画展が西宮市廣田神社の参集殿にて開催されました。展示会場では「令和6年 能登半島地震」の募金箱を設置していただきました。小林芙蓉後援会の方が能登半島地震で何かお役に立ちたいと募金活動をされ、1月に145,000円、3月に137,000円、書画展で30,000円、合計312,000円の募金が集まりました。

募金は後援会の方々や、それ以外のたくさんの方々のご協力がありました。能登半島地震へのボランティア活動はまだまだ必要で、AMDA兵庫ではテントサウナを使った活動予定とテントサウナ購入資金のお話をしていました。この話に賛同され、集まった募金全額をAMDA兵庫に寄付していただきました。皆様からの大切な募金を、能登半島地震で被災された方たちに必要とされる支援に使わせていただきます。



＝AMDA兵庫活動記録【2023年4月1日～2024年3月31日】＝

2023年4月14日～15日	第14回防災山キャンプ 炊き出し訓練 (江口、島田、丸山)
2023年5月4日～5日	アースデイ神戸参加 (江口、島田、AMDA神女クラブ)
2023年6月3日	「AMDA兵庫とネパール子ども病院の今までとこれから」 (江口、桂木、藤本、中川、島田、松元、坂部、丸山、上野、AMDA神女クラブ)
2023年6月4日	第1回防災講習会 (江口、桂木、藤本、中川、島田、松元、坂部、丸山)
2023年7月15日～16日	第15回防災山キャンプ いざという時の火起こし (キャンプギアや身近なものを使って)、缶で炊飯 (江口、島田、松元、丸山、上野)
2023年8月6日	第2回防災講習会 (江口、藤本、中川、島田、松元、坂部、丸山)
2023年8月9日	神戸市薬剤師会 活動報告・寄付金御礼 (江口、中川)
2023年9月9日～10日	第16回防災山キャンプ ロープワークについて学ぼう (江口、島田、上野)
2023年10月21日～22日	第4回防災海キャンプ (江口、島田)
2023年11月6日	南海トラフプラットフォーム ZOOM 会議 (江口、中川)
2023年11月18日～19日	第17回防災山キャンプ 災害時の低体温症を防ぐ採暖室としてのテントサウナの活用法 デモンストレーション (江口、島田)
2024年1月14日	医療通訳研究会 「日本語が母語でない医療通訳者のための医療日本語講座」 「痛みを表す表現・問診の大切さについて」講義 (中川)
2024年1月28日	医療通訳研究会 「日本語が母語でない医療通訳者のための医療日本語講座」 「こどものこと、風邪の治療と健康診断について」講義 (中川)
2024年1月29日	兵庫県災害医療センター 兵庫県災害医療システム協議会 (中川)
2024年2月14日	安藤忠雄建築研究所訪問 ネパール子ども病院図書館について (江口、中川)
2024年2月18日	阿南市防災訓練 新野中学校 (江口、藤本、島田)
2024年3月13日	廣田神社参集殿 小林芙蓉書画展にて能登半島地震募金活動 (島田)
2024年3月16日～17日	第18回防災山キャンプ 炊き出し訓練 (江口、島田)

＝ご寄付(敬称略)【2023年4月1日～2024年3月31日】＝

藍の都脳神経外科病院、井上京子、上野照美、宇都宮恵代、神戸市薬剤師会、小林芙蓉後援会、土井眞里子
豊中脳神経外科クリニック、前田ひとみ、水の都記念病院、AMDA神女クラブ (五十音順)

◇会員の募集

活動にご賛同いただける方は、ご協力をお願いいたします。
年会費 正会員 : 10,000円
賛助会員 : 1口 3,000円 (1口以上)
学生会員 : 3,000円

◇AMDA兵庫の活動に参加して下さい

AMDA兵庫では前述のプロジェクトに精力的に取り組んでいます。現在、これらの活動に賛同して下さる会員を募っております。随時、定例会を開いております。AMDA兵庫に興味のある方は、ぜひ一度ご参加ください。

AMDA兵庫 事務局
〒659-0032 兵庫県芦屋市浜風町10-1
E-mail: info@amda-hyogo.com HP: http://amda-hyogo.com 発効日: 2024年5月

定例会 随時、開催します。
HPに掲載しますので、ご覧ください。

AMDA兵庫だより



2023.4～2024.3 Vol.11

「AMDA兵庫とAMDAネパール子ども病院の今までとこれから」

於: 毎日新聞神戸支局セミナールーム

中川 卯衣

6月3日14時より、ネパールからプトワール市長、AMDAネパール子ども病院の元院長、元商工会議所会長など6人+通訳1人の方が来日され、AMDA兵庫で講演をしてくださいました。AMDA兵庫からの参加者は、AMDA神女クラブの6人も含めて20人
Khel Raj Pandey (ケル ラジュ パンデイ) プトワール市長
Tek Raj Panthi (テク ラジュ パンティ) プトワール市職員
Jivan Prasad Ojhanthachhe (ジバン プロサド オジャ) 商工会議所元会長
Ujwal prasad Kasaju (ウジョル プロサド カサズ) 商工会議所会長
Dr. Rishikesh Narayan Shrestha (リシケス ナラヤン シュレスタ) ネパール子ども病院元院長
Dr. Rajendra Prasad Basyal (ラジェンドラ プロサド バシヤール) ネパール子ども病院院長
そして、AMDAからアルチャナさんが通訳として来てくださいました。

まず、江口先生から1995年の阪神淡路大震災の縁でAMDA兵庫が中心となってプトワール市にAMDAネパール子ども病院が建設されたこと、2015年のネパール地震の時のAMDA兵庫の関わりについてお話があった。

その後、Dr.リシケスからAMDAネパール子ども病院は、貧しい人たちのための病院であり、母と子の健康支援を旨にしていること。1997年開業から現在までに90万人以上の人の治療を行い、妊婦や子どもの衛生や健康教育をすることで周産期・乳幼児の死亡率低下に寄与している。2015年のネパール地震の際は、いち早く被災地に駆けつけ救命活動をした。その後もAMDAネパールとして本部の要請により、ハイチ・フィリピン・インドネシアなどに医療団を派遣した。という今までの活動についての話があった。そして今後のAMDAネパール子ども病院について、現在ベッド数100床のところを段階的に300床に増床し、脳外科も備えた総合病院、いずれは医科大学病院へと発展する予定であるという発表があった。

また、現在のプトワール市長であるケルラジュバンデイ氏からも、今までのAMDA兵庫の支援に感謝が述べられた。また、今年11月に開院25周年記念式典が催され、AMDAネパール子ども病院からランビニまでのブッダワールドマラソンが企画されていると発表があった。今後は今まで以上に日本との連携を強めること、日本とネパールの愛の証であるAMDAネパール子ども病院への継続的な支援を望まれている。

Dr.リシケスのお話から、今でも篠原先生はAMDAネパール子ども病院の精神的支えであることが伝わり、篠原先生のお姉さん前田ひとみさんからの挨拶があった。その挨拶を受け、元商工会議所会長ジバンプロサドオジャ氏が篠原先生の思い出を語られるなど、アットホームな良い会となった。

(写真上段: Dr.リシケス、写真中段: ケルラジュバンデイ氏)



神戸市薬剤師会訪問

中川 卯衣

8月9日神戸市薬剤師会の安田理恵子会長を訪問しました。神戸市薬剤師会は長年にわたり、神戸市下の調剤薬局でAMDA兵庫のために募金活動をしていただいています。毎年、その寄付金をいただきにありがた、AMDA兵庫の活動のご報告をしています。今年は、理事長江口とともに副理事長中川もご挨拶に伺い、長年にわたるご支援に感謝をお伝えし、これからの活動に対しても変わらぬご協力をお願いしました。



防災山キャンプ

於：丹波播磨路芸術の夢

いざという時の火起こし

丸山 顕嘉

7月15日、16日に丹波播磨路芸術のもりにおいて教育部主催の第1回防災キャンプ講座を開催いたしました。男女問わず様々な年代の方に参加していただきました。

災害などが発生し、ライフラインが止まってしまう、ガスが使えなくなりました。その中で暖をとるためにはやはり『火』が大事である。その考えの元で今回は、様々な手段を用いての着火方法を体験しました。マッチ、ライター以外に、火打石、ファイアースターター（メタルマッチ）、虫眼鏡、乾電池などを使用しました。これらは、基本的に100円ショップで揃う物ばかりです。

また目的に応じた様々な薪の組み方も学びました。勢いよく燃やす組み方、調理に向けた組み方、長時間焚き火を楽しむ組み方など様々ありました。

様々な方法で火花を起こして、麻縄などに着火させる。パトニングをして細く割った木に火を移して、大きくしていく。普段の生活ではなかなかできない事を体験しました。

参加者からは、火を起こす事はできるが、維持させるのが難しい。100円ショップでも簡単に火おこしアイテムが購入できるので、万が一のために準備しておきたい。など、いろんな反応がありました。被災した時には、避難所避難、在宅避難。色々あると思いますが、その万が一の時に知っておくと役に立つ技術、知識、揃えておく便利な避難グッズなど、色々体験していければと考えております。



テントサウナのデモンストレーション

島田 雅文

11月18日、19日に災害時の低体温省を防ぐ取り組みとしてテントサウナの設営を行いました。

水江 祐人さん（株式会社AQUA 代表）はAMDA本部 大西彰さんからの紹介の方でテントサウナを取り扱う会社をされています。もう一人、谷 勇紀さん（BraveValley 代表）も一緒に紹介されましたが次回参加予定です。

当日の山は冷え込み厳しい寒さでしたがサウナに入ると一瞬で暖を取ることが可能でした。テント設営は思ったより簡単で慣れれば30分ほどで準備出来るかと思えます。持ち運びはミニバン

で運べる程度、重さは少しあります。室内温度は30度から90度近くまで設定でき寒い被災地で暖を取るのに活躍しそうなアイテムに思いました。（又、夏場にはドライアイスを使うと暑さしのぎにも使えるそうです）私は被災地を想定して私服のまま入りましたがすぐに体が温まりアロマのお陰でリラックス効果も体感出来ました。



炊き出し訓練

島田 雅文

3月16日に豚汁の炊き出し訓練を行いました。炊き出し訓練は16時よりスタート、災害時を想定してポリタンクの水を使い野菜を洗うところから始めます。炊き出し用の鍋や薪、火起こし組と調理組に分かれ今回は4人で70人前を作りました。完成までの所要時間は90分ほどでしたが人数が多ければもう少しスピードアップ出来ると思います。

今回の訓練でいつ必要になるかわからない災害時に備えて準備の必要性や日頃からの訓練の大切さを実感しました。



次年度の活動計画

島田 雅文

3月17日、次年度の活動計画のミーティングを行いました。関口オーナーがお山の入り口に一軒家を購入して現在リフォーム中ですがサロンとして今年中にはオープン予定で進めています。その1室をAMDA兵庫に使わせていただけるとのことで、次年度に購入する予定のテントサウナや保存食、等の保管庫として活用できたらと思います。キャンプ場ではステージを設置してのイベントの話も出ました。関口オーナーから招待された日本旅のペンクラブに江口、島田が会員になっていますが、毎年11月3日に芸術のモリでイベントがあります。そこにAMDA兵庫とのコラボレーションで、芸術や音楽を取り入れた文化祭を開催する企画が持ち上がりました。今後学生らを巻き込んで、芸術や音楽で被災者の心の癒しに繋がるような活動に繋げるように進めていきたいと思っています。

AMDA 南海トラフプラットフォーム会議（ZOOM）

中川 卯衣

講師：ハウエツ病院 林秀樹先生 参加者：30施設

11月6日 AMDA 南海トラフ地震対応プラットフォーム会議（ZOOM）に参加した。南海トラフ地震が起こった時のために、AMDA本部と総社市と四国の9市町との連携協定が結ばれている。「事前備蓄＋事前交流」をキーワードに、実際の具体的な訓練を例に挙げて、医療者・保健所・自衛隊など多職種が連携して動くためのプラットフォームについての話をいただいた。

そして、なによりも大切なことは「国や県など行政の支援からもらえる人々にも対応し、すべての被災者に支援が届くようにすることだ」という林先生のメッセージを参加者皆で共有した。

兵庫県災害医療システム協議会

中川 卯衣

1月29日 兵庫県災害医療センターにて行われた、兵庫県災害救急医療システム運営協議会に出席しました。コロナ対応が終わり、昨年秋ごろから徐々に防災訓練が再開されてきていた中での1月1日に発生した能登半島地震に対する対応が各部署より発表されました。訓練および実地での反省点として、適材適所に役割分担をするために、より平常時での多職種連携を深めていきたいという考えが多く出ました。

阿南市立新野中学校防災訓練に参加して

江口 貴博

AMDA兵庫は、AMDA南海トラフプラットフォームに参加し、南海トラフ地震に際しては徳島県阿南市の避難所医療支援を担当する予定です。そして6年前から阿南市で行われる防災訓練に医師らを派遣してきました。今年も2月18日新野中学校で行われた防災訓練に参加し、医師や検査技師、防災山キャンプと防災海キャンプメンバーを含めて、総勢9人での参加となりました。

前日は、津波災害での浸水を想定してできるだけ山側の道を通って阿南市に入り、加茂谷から新野に抜ける山越えのルートを確認しました。また、椿泊の半島山頂に位置する椿自然園に宿泊し、阿南市の海岸線の地形を確認しました。

当日は、阿南市立新野中学校に朝9時に集合し、ハウエツ病院と諏訪中央病院からの参加者8名と合流しました。訓練には地域の住民や中高生らとともに、自衛隊や通信会社、防災グッズの企業なども参加していました。阿南市の防災担当者、医師会、保健師、防災士なども勢ぞろいし、交流を深めました。

正午からは、地域住民に対して、地域の医師や保健師とともに、医療救護活動のシミュレーションとして、トリアージの実践と救急医療のデモンストレーションを行いました。また、能登半島地震の経験から低体温症で亡くなる方を救う目的で、今回新たにテントサウナを利用した採暖室を設置し、その必要性を再認識しました。これからも防災訓練を通して、南海トラフ発災時への準備をさらに進めていきます。



長年のご支援への感謝を込めて ～コロナ禍にも負けず～

AMDA 兵庫理事長 江口貴博

いつもAMDA兵庫の活動にご理解を頂き、そしてAMDAネパール子ども病院（ネパール名、シッダールタ母子専門病院）をご支援頂きましてありがとうございます。

私たちAMDA兵庫は1998年の設立以来、阪神淡路大震災のお礼をしようとしたAMDAネパール子ども病院への支援とともに、緊急災害医療支援を中心に活動して参りました。皆様の温かいご支援によりまして、AMDAネパール子ども病院は昨年11月2日で25年の節目を迎えました。その間90万人を超える母子が病院を訪れ、6万人以上の赤ちゃんが誕生し、ネパールの乳幼児死亡率は3分の1以下となり、地域に無くてはならない病院として機能しています。昨年6月初旬には、ネパールから院長やブトワール市長など6名が神戸を表敬訪問し、ベッドの増床や診療科の増加を図ることで合意しました。

そして、緊急災害医療支援としては、将来の南海トラフ地震による津波災害において、AMDA本部の進める災害医療支援プラットフォームに参加、徳島県阿南市を担当し、徳島県と阿南市主催の防災訓練に参加すると同時に、阿南市役所や医師会、歯科医師会、航空医療研究所などとの連携を進めています。また、防災訓練の場所として、兵庫県加東市の播磨芸術の夢（もり）の山キャンプ場や徳島県松茂町の月見ヶ丘浜キャンプ場と連携し、2回の災害調整員（仮称）養成講習会を開催、炊き出し訓練やテントサウナを利用した採暖室の訓練などを行いました。2月18日の阿南市防災訓練でのテントサウナ採暖室の実演を経て、能登半島地震での実践を行う方向で準備を進めています。

そのような活動が認められ、さだまささんが企画、運営している公益財団法人「風に立つライオン基金」と災害連携協定を結ぶことの内諾を得ました。

AMDA兵庫は、阪神淡路大震災の時に頂いた支援への感謝の気持ちを、全国の被災地に届ける活動を続けてまいります。引き続きご支援下さいますよう、どうぞよろしくお願い致します。